

東浦小・中学校『東浦みかんプロジェクト』（教育プログラム） 地元特産のみかんを学んでPR



の栽培に関する作業に取り組んでいます。

「東浦地区では江戸時代からみかん栽培が行われてきた歴史があります。当校では長年にわたり『東浦みかんプロジェクト』として、総合的な学習の時間にみかんの栽培に関する作業やPRなどの活動を行っています」と話すのは、教務主任の南光教諭。

海岸沿いの日当たりの良い斜面で栽培される東浦みかんは、適度な潮風にさらされて育ち、酸味と甘みの絶妙なバランスが特徴です。『東浦みかんプロジェクト』では、そんな地域特産品の栽培に関する作業を通して地元への愛着を深めることを目的に、様々な活動を実施しています。

みかん農家での作業や販売も

東浦小・中学校では、小学3年生から総合的な学習の時間で東浦みかんの歴史や特色などを学びます。さらに、校外学習としてみかん農家を訪れ、剪定や摘果、収穫などの農作業を行います。

「農家の方々には子どもたちのために、丁寧な作業を教えてくださいます。低学年は普段の授業とは違ったお楽しみ、という感覚ですが、中学生になると故郷のみかんを大事に育てたい、東浦みかんを多くのの人に知って欲しいと意識が変化していくようです」（南光教諭）

収穫したみかんの販売活動も行っています。昨年は5・6年生が敦賀駅交流施設「オルパーク」でみかんを販売。道行く人たちが笑顔の子どもたちからみかんを買い求めていました。



敦賀市の北東部、敦賀湾に面した東浦地区。この地にある東浦小・中学校は、児童・生徒数30人（2024年11月現在）の小中併設校です。この学校では授業の一環として、地元特産品である東浦みかん



2024年7月に行った摘果作業。実が付き過ぎると株が弱るので、成長する前の果実を適度に摘み取ります。



オルパークで行った販売活動。おそろいの法被を着て地元自慢のみかんをPRしました。



リーフレットにて県内外へアピール

『東浦みかんプロジェクト』の活動内容は、年度によって様々です。昨年度は市内で歌い継がれる民謡踊りの歌「敦賀とてもすきすき」をもとにした「みかん音頭」を作成。また、近隣の学校との交流イベントでみかんジュースをふるまうなど、おもてなしにも活用しました。今年度は摘果したみかんでシロップ漬けを作りました。

さらに県外にも「東浦みかんの魅力を発信しよう」とリーフレットを作成し、修学旅行先の奈良・大阪や東京で配布してPRに努めています。

みかんは、収穫量が多い「表年」と少なめな「裏年」が一年ごとに繰り返されます。今年は「裏年」ですが、子どもたちの元気いっぱいの取り組みが、次の実りにつながっていきます。

県内外でのPRも展開



昨年度の中学3年生が手作りした看板。今年度のPR活動にも使われ、プロジェクトに込めた思いが受け継がれています。

東浦小・中学校の活動はこちら

